

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 11 月 18 日

【評価実施概要】

事業所番号	2170500397		
法人名	ハートライフ株式会社		
事業所名	ハート介護センターグループホーム		
所在地	岐阜県各務原市三井東町4丁目131-3 (電話) 058-371-6233		
評価機関名	NPO法人ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成20年11月11日	評価確定日	平成20年12月9日

【情報提供票より】 (平成 20 年 10 月 9 日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12 年 9 月 22 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 5 人, 非常勤 3 人, 常勤換算	6 人

(2) 建物概要

建物構造	木 造り		
	2 階建ての	1 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	20,000~ 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		666 円

(4) 利用者の概要 (平成 20 年 10 月 9 日 現在)

利用者人数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名
要介護3	2 名	要介護4	2 名
要介護5	2 名	要支援2	名
年齢	平均 83 歳	最低 59 歳	最高 93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	丹羽医院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

住宅街の一角にあり、日本建築の民家を活用したグループホームである。居室は和室の畳敷きで、襖とガラス戸で仕切られている。1階には回り廊下があり、ほっとする空間となっている。平成12年9月から開所された歴史あるホームは、今年の前半に職員の大幅な入れ替えと管理者も交代するなど、大きな転機があった。幸いに新しい管理者と職員とのチームケアは、より強い結束力と持ち前の明るさで、利用者や家族から認められ、短期間で高い評価を受けている。地域との関係は、気さくな差し入れや行事参加の声かけ、積極的な防災訓練の協力等、近隣住民の受け入れも心温まるものがある。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価で改善課題として取り上げられた「終末期ケア」は、家族・医療機関・職員の三者での話し合いや検討が繰り返し行われ、ホームでの看取りが実践されている。「玄関の鍵」は日中開錠されており、自由に出入りが出来るようになった。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目②	管理者及び大半の職員が1年未満の勤務のため、全員で意見を出し合い一致協力して今回の自己評価に取り組んできた。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目③	自治会・老人クラブ・民生委員の代表者をはじめ地域包括支援センター職員、市担当者との出席の下、おおむね3ヶ月に1度開催されている。ホームの取り組み状況の報告や情報交換、地域行事への参加などが検討されている。また、外部評価の結果を報告し、サービスの質の向上に努めている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
重点項目④	毎月、「ハートだより」を作成し、各家族に時々の写真や個人の状況を記載し、日常生活を出来るだけ詳しく報告している。ホームに意見箱も置かれているが、実際に投書は見られない。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	散歩コースにもなっている「ふれあい会館」は、地域住民との交流の場となっている。毎月行われる会館での「集い」への招待や、ホームでのお茶会、差し入れなど気楽な近所付き合いが育まれている。また、防災訓練には、近隣の協力による避難訓練も行われている。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の協力を得ながら、利用者が日々穏やかに笑顔で過ごせるようにという、家族の意向を反映し、「家族のように、心と心の通い合い」という理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	入居しているのではなく、家族として暮らしてもらえるよう、月1回のケア会議において職員全員で理念の共有を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の「ふれあい会館」で行われる行事に毎月招待され参加し、時にはホームに訪問してもらい、地域の人々と交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全体で評価の意義を理解し、全員で意見を出し合い、自己評価に取り組んできた。また、外部評価の結果は会議で報告し、サービスの質の向上に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	おおむね3ヶ月ごとに運営推進会議を開催している。日頃から付き合いのある自治会・老人クラブ・民生委員等の代表者や地域包括支援センター職員、市担当者と情報や意見交換を行っている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当窓口に対し、ホームでの問題解決に向けた取り組みや困難事例の報告を行い、情報の共有に勤めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、「ハートだより」を作成し、各家族宛に行事の写真や個人の状況を記載し、利用者の日常生活を出来るだけ詳しく報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームの玄関に意見箱を設置し、家族の意見を出してもらえるようにしている。実際には、意見箱への投書は見られない。	○	家族会やアンケート調査等を実施し、より意見が出しやすい環境づくりを期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や離職の際は、前任者からの引継ぎを徹底し、全職員が利用者の共通理解を行いながら支援できるように配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修においては、ケア会議等で担当者を決め、疑問や問題解決における施設内研修を計画的に実施している。外部研修には管理者等代表者が参加し、職員に研修内容を周知している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者等事業所の代表が、岐阜県グループホーム協議会等同業者の会議に参加し、職員に報告している。ただ、職員が交流する機会はみられない。	○	系列にあるグループホームとそれぞれの職員が情報交換を行う機会を設けるなど、出来ることからの取り組みを期待したい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前には、ホームでお茶の時間に参加したり職員と会話するなど、雰囲気馴染めるよう体験してもらっている。また、入居開始時は、家族との面会機会を多くしたり、変化に対応できるよう連携を密にしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者にも食事の準備や片付け等をできる範囲で手伝ってもらい、協働の生活づくりを行っている。また、その都度感謝の気持ちを伝えるよう心がけている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で利用者の状況把握を行ったり、家族との話し合いの中で利用者や家族の意向把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメント票等の様式は、使いやすく出来ており、課題となるニーズのとらえ方、そこから引き出されるサービス内容が具体的に記載されており、職員のケア統一化が図りやすく作成されている。家族や職員の意見は聞き取っているが、介護計画には利用者の意向が十分に反映されていない。	○	日々の係わりの中で、利用者がもらす言葉や会話の中から拾い上げた本人の意向を反映させた利用者主体の計画作成を期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとの見直しを基本的に行っているが、状況に応じて、1ヶ月後の見直しや計画の変更を実施している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	職員が出来るのは、車椅子で行ける範囲の外出支援に限られている。そのため、買い物や受診など車を必要とする支援は、取締役自らが受け持っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用書のほぼ全員がホームの協力医をかかりつけ医としている。ホーム協力医からは、週1回の往診と急変時の対応があり、本人や家族からの信頼を得ている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームで終末を迎えたい、迎えさせてやりたい、と言う本人や家族の意向を受け入れるため、家族・かかりつけ医・ホームと繰り返し検討を行い、終末期ケアを実践している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉かけや介助には、理念に基づく細やかな配慮が認められる。ただし、生活空間の中に、一人になれる環境の確保が難しい。	○	排泄時には他人から見られない配慮や、2人部屋でのプライバシーの確保を今一度考慮されたい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	いくつかの提案をし、選択してもらうことでその日にあった、その人が希望する一日が過ごせるよう支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	年々重度化する利用者の中で、1・2人の人が野菜を洗ったり、切ったりする程度の参加となっている。近所からの野菜の差し入れや利用者の味見に、食事の時間には会話が弾んでいる。	○	
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	浴槽の深い個浴で、職員2人で入浴介助を行っている。そのため、介助が必要な人は、職員の手がある時を入浴時間に当てている。ただし、自分で入浴できる人については、希望の時間に提供している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の下ごしらえ、テーブル拭き、共同スペースの掃き掃除などは役割分担し、また、天気の良い日には、庭先でカラオケを行っており、近所の人も参加するほどの活気がある。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	町内の公民館である「ふれあい会館」まで散歩するのが日課となっている。喫茶の日として、月に2回、隣の喫茶に出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の鍵は施錠されておらず、近隣の人も気さくに訪問している。居室は、襖とガラス戸のため鍵は付けられていない。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練は、地域と共同で行い、近所の人の日頃の付き合いから、利用者の名前も身体状況も把握し、避難援助の協力が得られている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の介護記録に食事の摂取量と水分量が記載されている。咀嚼機能や嚥下状態に応じた食事形態をとり、食べやすく工夫したり、食事介助などを行っている。濃い味付けが好まれるため、健康管理が懸念される。	○	副食の味付けなど基本的に薄味にし、個々の好みで味を足すなどの工夫が望まれる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	民家を賃貸で使用しているため、ホーム側の意向に沿って改善できない事情がある。ただ玄関にスチールの事務机が置かれたり、トイレの鍵が壊れたままになっているのは居心地の良い家庭的な雰囲気と言えない。	○	ハード面で手がつけられない現状は理解できるが、少しの工夫で家庭的な環境整備が可能と思われる。職員間で再考されたい。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の持ち物は、最小限必要なものが、押入れに納められている状況である。ただ、民家であるため、殺風景な感じは無く、生活感が感じられる。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。